

2024年9月入学式式辞(学部・大学院共通)

2024年9月21日

田中愛治

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新入生を育て、支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。心からお祝い申し上げます。

新入生の皆さんだけでなく、ご家族の方にもご参加いただきたい気持ちもありましたが、この早稲田アリーナの前の道路や交差点が危険なほど混雑することもあり、ここ数年間は新入生の皆さんだけの出席をお願いしています。ご理解いただければと思います。

本日は、皆さんのご入学に際して、私から二つのこととお話ししたいと思います。一つは、新入生の皆さんに早稲田大学の教育に関する哲学と理念です。もう一つは、皆さんに早稲田が提供する教育環境から何を学び取ってもらいたいかというお話です。

第1に、私が早稲田大学の総長として提唱してきた理念が3つあります。それは、「たくましい知性」と、「しなやかな感性」、それに「響き合う理性」です。

「たくましい知性」とは、どういう知性でしょうか。今日、人類が直面している問題の多くには、正解がありません。たとえば、コロナ・パンデミックへの対策には、これが正解と証明されているものはありませんでした。同様に、地球の温暖化による気候変動への対策も、また世界各地で起きている戦争・紛争・武力侵攻によって多くの人々が命を落とし、人権侵害が続いている状態など、どの問題をとっても、一つの正解というものを持っている人はいないのです。

私は、皆さんには是非とも早稲田で「たくましい知性」を育み、自分の頭で、自分なりの解決策を提示できるようになっていただきたいのです。ただし、「自分の頭で考える」と言っても、ただの思い付きでは、現実の社会では通用しません。そのためには、学問を身に付けたうえで自分の頭で考える必要があります。

では、学問とは何でしょうか。学問とは、文字が発明されて以来、5千年にわたる人類の経験のエッセンスが体系的にまとめられたものです。確かに、過去に人類が経験したことのない未知の問題の解決方法は、学問には記されていません。しかし、学問をひもとけば、過去に人類がどのように、その時代、その時代

に未知の問題に挑戦したのかを、学ぶことができます。したがって、人類がかつて未知の問題にどのように答えようとしたかという学問の成果を、皆さんがこれか早稲田で学ぶことは、皆さんが将来、未知の問題の解決策を考える際に有用です。

もう一つの大切な理念は、「しなやかな感性」を育むというものです。「しなやかな感性」を育むということは、異なる国籍・民族・言語・宗教・文化・信条、さらに異なる性別の人や性的少数者の人々を理解し、受け入れ、敬意を払うことです。それらの自分とは異なる人々の考え方や感じ方を理解できる感性を私は「しなやかな感性」と呼んでいます。

これからは、世界がボーダーレスとなり、日本であろうと海外であろうと、様々な人々と一緒に仕事をしたり、生活を共にしたりすることは不可避です。そのような環境では、自分と異なる立場の人々のことを思いやる気持ちが大切です。そのためにも、早稲田大学で「しなやかな感性」を育ててください。

「しなやかな感性」を育むのに、私が最も効果的だと思うのは、留学をして自分の国以外の国に住んでみて、多様な人々に触れあい、外から日本を見つめる経験を持つことです。早稲田大学は、コロナ・パンデミックの前の2019年には、4,580名の学生を海外留学に送り出しており、8,350名の海外からの留学生を受け入れています。これらの数値はどちらも日本の大学で最多の人数を示しています。

皆さんの多くは、既に海外に住んできたことがあるか、これから住もうとしているわけです。この経験を十分に活かしてください。また、日本で育った学生の皆さんは、是非とも交換留学などの機会を見つけて、海外で学ぶ経験をしてみてください。

実は、私自身も早稲田大学を卒業して、直ぐにアメリカに留学して10年半滞在し、大学院教育はすべてアメリカで受けました。そのことが、後に大変役に立ったと、今でもそのような機会を与えられたことを感謝しています。

3つ目の理念は「響き合う理性」です。この理念は、自分と異なる考えを持つ人の意見にも耳を傾け、対話を通して互いに高めあうことを目指しています。早稲田という研究力の高い大学で学ぶ皆さんは、ご自身の理性を鍛え、自信を持つてもらいたいのですが、同時に、他の人の理性にも敬意をもって接

してもらいたいということです。

早稲田大学は、「たくましい知性」「しなやかな感性」「響き合う理性」を提供する最良の教育環境を整えていると、自信を持って言えます。例えば、早稲田では、「Academic Writing and Discussion in English (AWADE)」を教えています。これはエール大学やUCLAで教えている「フレッシュマン・イングリッシュ（新入生のための英文の論理的な書き方）」に匹敵する内容です。この科目は、いかに論理的に考え論理的に文章表現できるかを学ぶことができますので、英語が母語でない学生さんにも英語が母語の学生さんにもお勧めです。この科目はグローバル・エデュケーション・センター（GEC）で履修することができます。

また、GECは日本語における「学術的文章の作成」という科目を提供しており、この科目は日本語の文章を書く力を育てますので、日本で育った学生だけでなく、海外からの留学生にも有益です。この「学術的文章の作成」という科目の背景にある文章作成の考え方は、先に述べたAWADEと同じ理論に基づいているのです。

海外から来た留学生の学生の皆さんで、まだ日本語を十分に習得できていない方は、日本語教育研究センターでいくつものレベルに分かれた日本語を学ぶ科目を履修することができます。

その他に、GECはデータ科学の科目を複数を用意しています。データ科学センター（CDS）では、「データ科学」の入門から中級・上級までいくつもの科目を揃えています。これらの科目は、AI（人工知能）を用いてビッグ・データを分析する手法を学べます。これがデータ科学センター独自の教育プログラムの特徴です。

これらは、皆さんが学部の垣根を越えて学ぶことができる複数の科目のいくつかの例に過ぎません。早稲田はそれ以上に多様な科目を数多く設置している日本で唯一の大学なのです。

また、私は、皆さんが正規の学科目以外に、何か打ち込めるものに出会ってほしいと願っています。早稲田は皆さんの興味のある活動のほとんどのものを揃えている大学なのです。ただし、同時に真剣に勉強することも忘れないでください。

皆さんには早稲田での学生生活を楽しんで頂きたいと願っています。そして、現在すでに素晴らしい学生である皆さんが、4年後には、より一層輝いて卒業することを期待しています。

早稲田大学へのご入学、本当におめでとうございます。
早稲田大学によろこそ！